

# 川越市上下水道事業の概要

平成 3 0 年 7 月 1 3 日（金）  
第 1 回川越市上下水道事業経営審議会  
川越市上下水道局 総務企画課

# 目次

---

1. 地方公営企業とは
  - (1) 公営企業の種類
  - (2) 地方公営企業の特徴
2. 川越市水道事業の概要
  - (1) 川越市水道事業の沿革
  - (2) 川越市水道事業を取り巻く状況
  - (3) 水道事業の概要
  - (4) 業務量の推移（水道事業）
3. 川越市公共下水道事業の概要
  - (1) 川越市下水道事業の沿革
  - (2) 川越市公共下水道事業を取り巻く状況
  - (3) 公共下水道事業の概要
  - (4) 業務量の推移（公共下水道事業）
4. 地方公営企業の会計制度
  - (1) 公営企業会計の特徴
  - (2) 平成28年度決算
5. 審議会について
  - (1) 附属機関
  - (2) 川越市上下水道事業経営審議会
  - (3) 平成30年度スケジュール

# 1. 地方公営企業とは

地方公営企業は、企業としての経済性を発揮し、住民の福祉を増進するために地方公共団体が設置、運営する企業です。

一般的な行政活動のほか、水の供給や公共輸送の確保、医療の提供、下水の処理など、地域住民の生活や地域の発展に不可欠なサービスを提供する様々な事業活動を行っています。こうした事業のために地方公共団体が経営する企業活動の総称を「地方公営企業」と呼びます。

## (1) 公営企業の種類

地方公営企業法（以下「法」という）が適用される企業を指します（法第2条）。

➤ 法の全部が適用される事業（当然全部適用）

水道事業、工業水道事業、軌道事業、自動車運送事業、鉄道事業、電気事業、ガス事業

➤ 財務規定のみが（当然）適用される事業

病院事業

➤ 法の適用は、任意とされている事業（任意適用）

簡易水道事業、港湾整備事業、市場事業、宅地造成事業、公共下水道事業 等

## (2) 地方公営企業の特徴

### ➤ 独立採算性（地方財政法第6条）

公営企業の事業は、その活動に要する経費が、利用者の負担する料金等によって賄われるということが特徴です。川越市上下水道局では、「水道事業」「公共下水道事業」の2つの事業を実施しており、両事業とも地方公営企業法を適用しています。

#### 1. 水道事業

水道料金収入で必要な経費を賄います。

#### 2. 公共下水道事業

下水道使用料収入で汚水処理に係る経費を賄います。

ただし、雨水処理に係る経費は、公費（税金）で負担します（汚水私費・雨水公費の原則）。

### ➤ 企業会計方式（地方公営企業法施行令第9条）

経済活動の記録を「ある経済価値の増加」と「他の経済価値の減少」という側面で捉えます。

\* 企業会計制度について詳しくは、P16ページ以降に記載しています。



## 2. 川越市水道事業の概要

### (1) 川越市水道事業の沿革

- 本市の水道事業は、昭和26年9月に事業認可を受け、昭和29年5月から市街地の一部に向けて、給水を開始しました。
- 創設から第7次までにわたる拡張を重ねたことによって、市内8箇所の受水場及び浄水場が整備され、市内全域への給水が行われています。

### (2) 川越市水道事業を取り巻く状況

- 川越市の人口は、350,000人を超え、現在も微増していますが、今後は人口が減少していくことが見込まれ、水道の使用量も減少が予想されます。
- 最も新しい中福受水場でも建築から約30年を経過しているため、平成15年度から浄水場の更新、施設の耐震化に本格的に着手しています。
- 水道事業は、給水区域の拡張から水道施設の維持管理へと事業の中心が移っています。

### (3) 水道事業の概要

水道事業の概要（平成29年度末）	
事業創設認可年月日	昭和26年9月25日
供用開始年月日	昭和29年5月1日
行政区域内人口	352,418人
給水人口	352,356人
年間総配水量	39,609,235m <sup>3</sup>
年間有収水量	37,453,204m <sup>3</sup>
有収率	94.6%

- 水道事業の人口普及率（現在給水人口/行政区域内人口）は、99.9%です。
- 「有収水量」とは、配水した水量のうち、水道料金収入の対象となる水量をいいます。

## ● 川越市の水道施設

- 市内には7箇所の浄水場と1箇所の受水場があり、市内全域への給水を行っています。

### 受水場

埼玉県の浄水場から送られてくる水（県水）を受水する施設

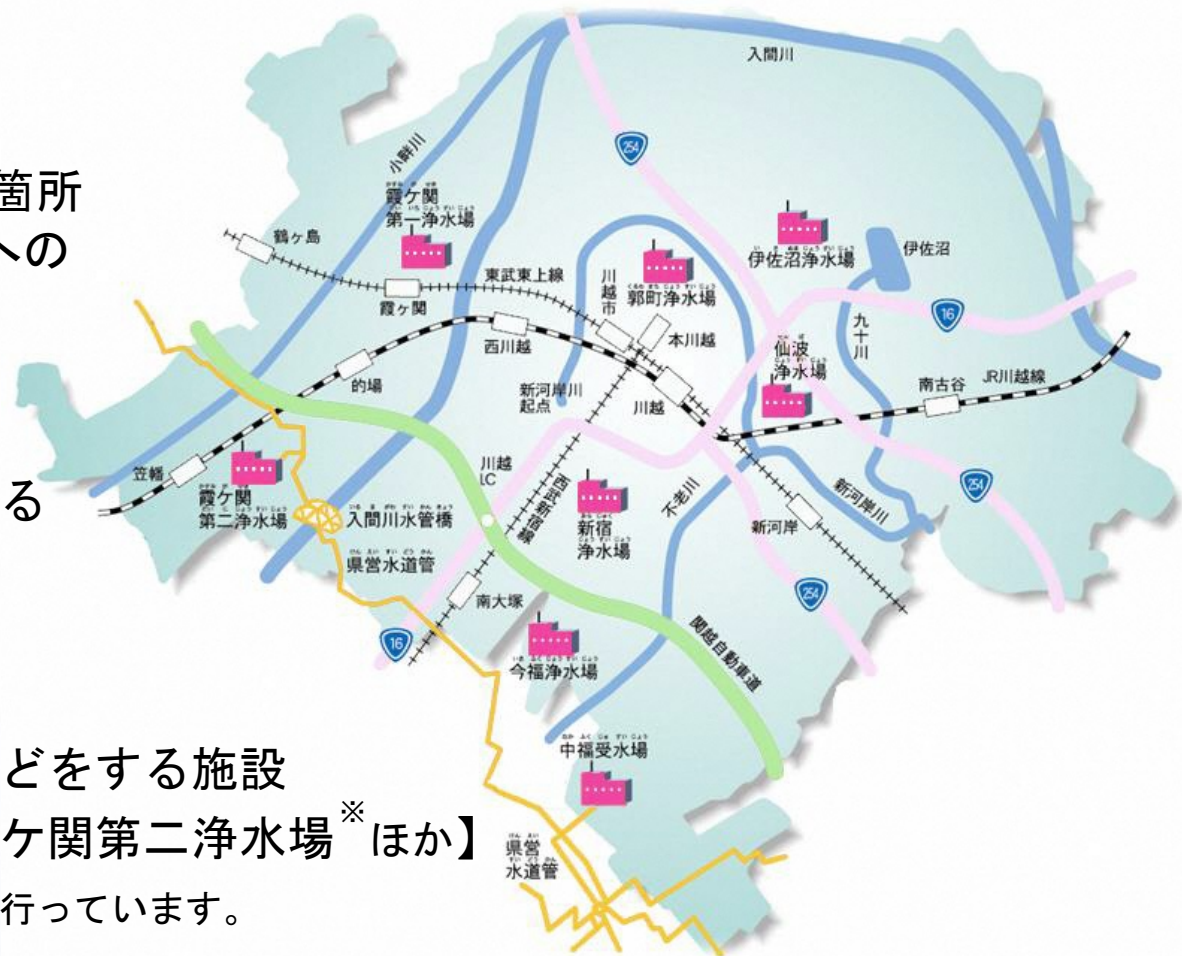
【中福受水場】

### 浄水場

地下水をくみ上げ、消毒処理などをする施設

【郭町浄水場、仙波浄水場、霞ヶ関第二浄水場※ほか】

※霞ヶ関第二浄水場では、県水の受水も行っています。



### ✓ 水道管（管路）

市内へ水道水を送るための水道管（管路）の総延長は約1,473kmで、耐震化率は約20%です（平成29年度末）。



## ● 川越市の水道水

### 県水（約90%）

利根川と荒川から取水したあと、浄化処理をした河川水を埼玉県から購入しています。

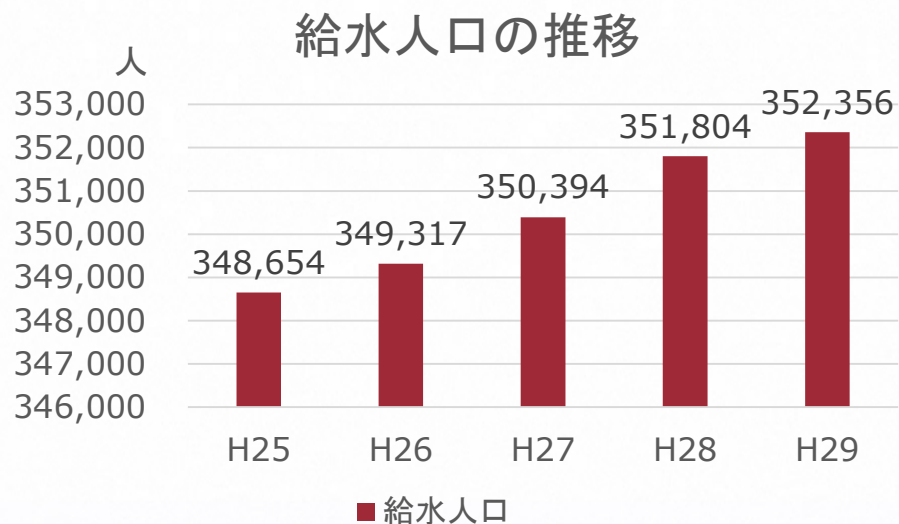
### 地下水（約10%）

市内に41箇所ある深井戸（深さ126m～230m）から地下水を汲み上げています。

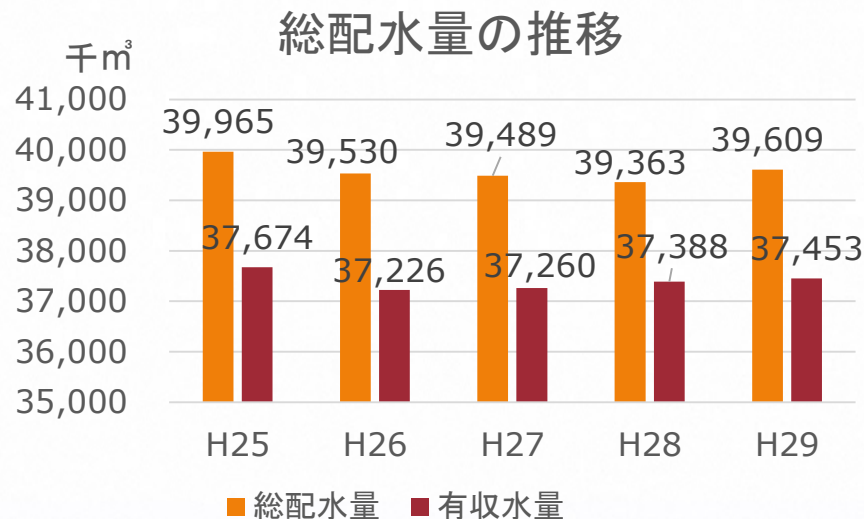




## (4) 業務量の推移 (水道事業)



川越市の給水人口は、行政人口が微増傾向にあることから、現在のところ増加していますが、今後は、減少局面に向かうものと見込まれます。



総配水量、有収水量は、減少傾向にあります。今後も人口減少、節水意識の向上、節水機器の普及等の要因により水需要が減少することが予想されます。

### 3. 川越市公共下水道事業の概要

#### (1) 川越市下水道事業の沿革

- 本市の下水道事業は、大正13年に市内全域の大規模な下水道計画を策定したことに始まります。大正15年には、現在の末広町・仲町付近の排水を新河岸川（旧赤間川）に導く工事に着手しました（第一次下水道工事）。
- 3次に渡る下水道工事を経て、昭和39年に旧滝ノ下終末処理場が稼働し、本格的な公共下水道事業がはじまりました。
- 昭和52年に埼玉県荒川右岸流域下水道に加わり、流域関連公共下水道事業に着手しました。

#### (2) 川越市公共下水道事業を取り巻く状況

- 平成29年度末で全体計画に対する整備率は、64.4%となっており、市街化区域の下水道整備は、一部を除き、概ね完了しています。現在は、市街化調整区域の公衆衛生の向上及び公共用水域の水質保全を図るため事業を進めています。また、浸水対策として内水ハザードマップの作成、雨水貯留施設の設置等を行っています。

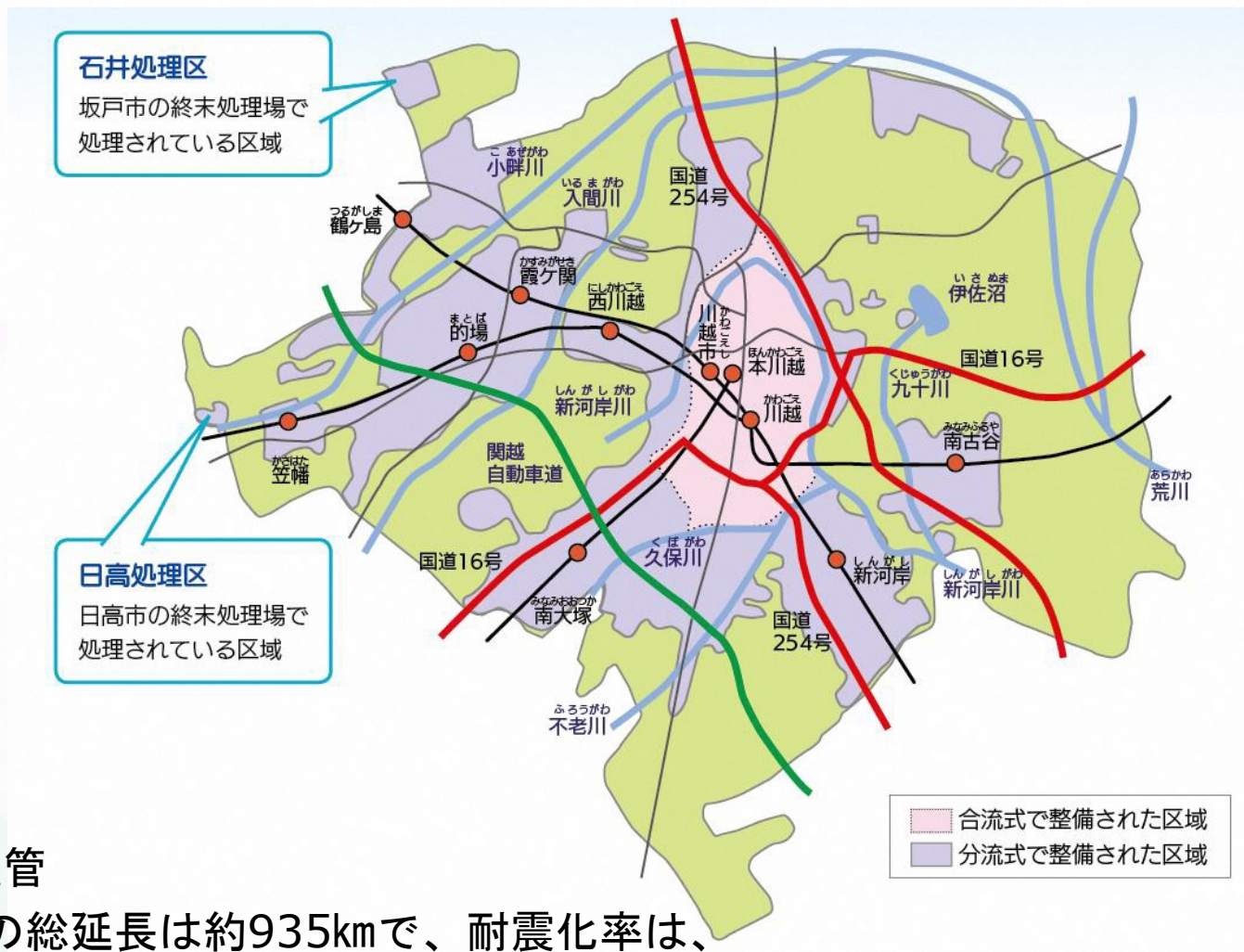
### (3) 公共下水道事業の概要

公共下水道事業の概要（平成29年度末）	
第一次工事可決（市議会）	大正14年9月29日
第一次工事竣工	昭和2年3月
処理区域内人口	308,327人
水洗化人口	302,151人
年間汚水処理量	46,446,795m <sup>3</sup>
年間有収水量	33,114,686m <sup>3</sup>
有収率	71.3%

- 水洗化人口とは、処理区域（下水道が整備された区域）内で実際に下水道に接続している人口で、本市の対人口水洗化率は、98.0%です。
- 「有収水量」は、年間の汚水処理量のうち、下水道使用料の対象となる水量をいいます。



## ● 川越市の下水（污水）整備状況



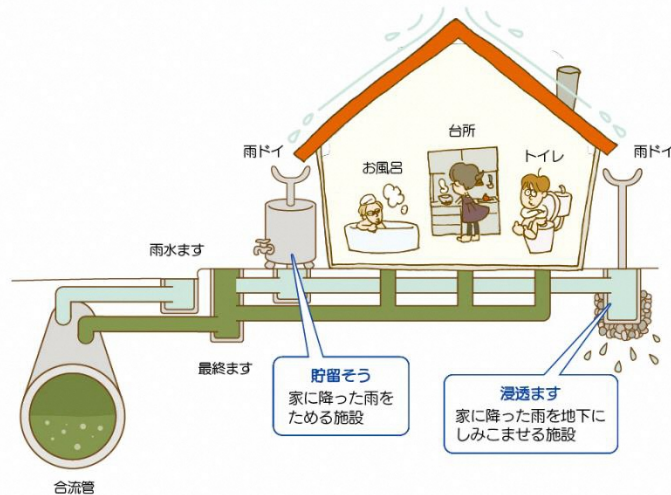
## ✓ 下水道管

下水道管の総延長は約935kmで、耐震化率は、約15%です（平成29年度末）。

## ● 川越市の下水（污水）処理方式

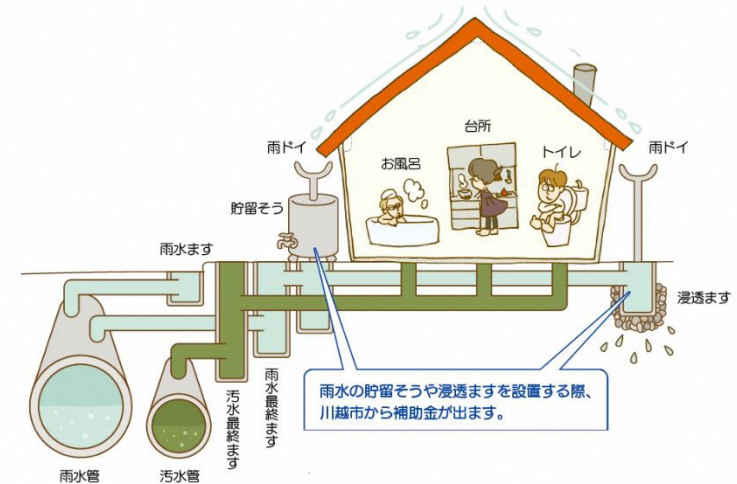
### 合流式

お風呂や台所、トイレなどの污水と道路や家などに降った雨水を一緒に下水道管へ排出する方法です。



### 分流式

お風呂や台所、トイレなどの污水と道路や家などに降った雨水とを別々の下水道管へ排出する方法です。



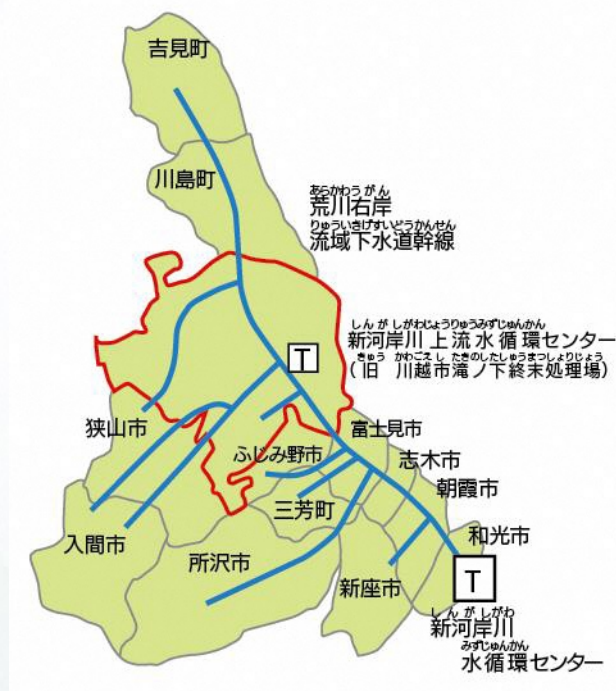
川越市の合流式と分流式の比率は、概ね 1 : 4 となっています。



## ➤ 流域下水道とは

複数の市町村の公共下水道からの下水を、区域を超えて広域的に収集・処理するもので、下水道管、ポンプ場、終末処理場から構成され、維持管理は、原則として都道府県が行います。

川越市の公共下水道の汚水は、埼玉県が管理・運営している荒川右岸流域下水道で処理されています。



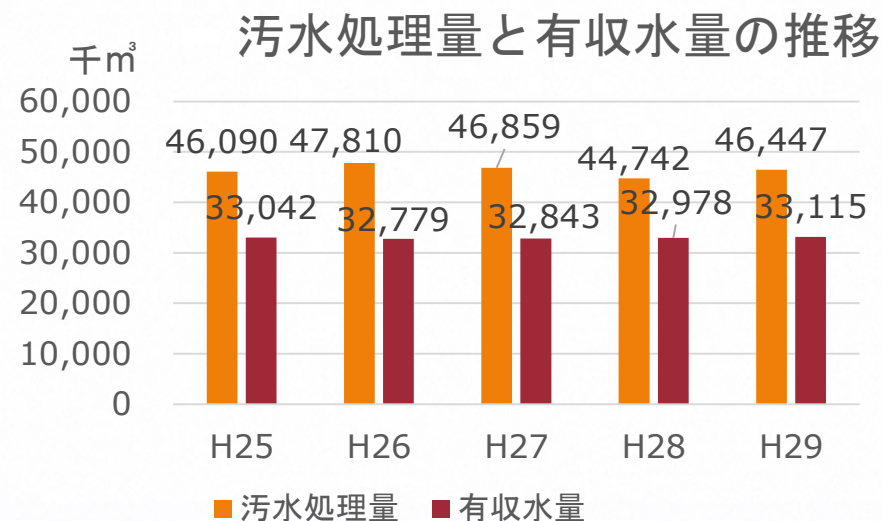
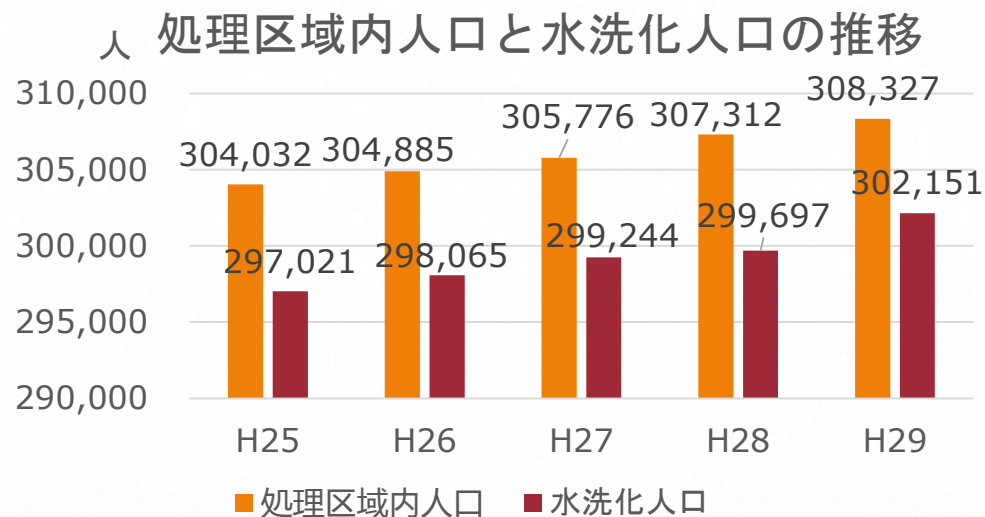
荒川右岸処理区は、大部分が分流式下水道で下水を排水する区域で、埼玉県で建設した下水道管（荒川右岸流域下水道幹線）へ汚水を排水しています。

この下水道管に排水された汚水は、和光市にある新河岸川水循環センターで処理されています。

また、川越市の合流式下水道の汚水は、市内にある新河岸川上流水循環センターで処理されています。



## (4) 業務量の推移（公共下水道事業）



処理区域内人口、水洗化人口ともに増加していますが、下水道への接続率が低下しており、継続的に対策を行っていく必要があります。

汚水処理量、有収水量ともに横ばい傾向です。今後、有収率の向上のため、污水管への雨水等の混入を防ぐための対策（不明水対策）を強化していく必要があります。

# 4. 地方公営企業の会計制度

## (1) 公営企業会計の特徴

### ➤ 発生主義

現金の収支の有無にかかわらず、経済活動の発生という事実に基づきその発生の都度記録し、整理する会計方式を採用しています（地方公営企業法第20条第1項）。



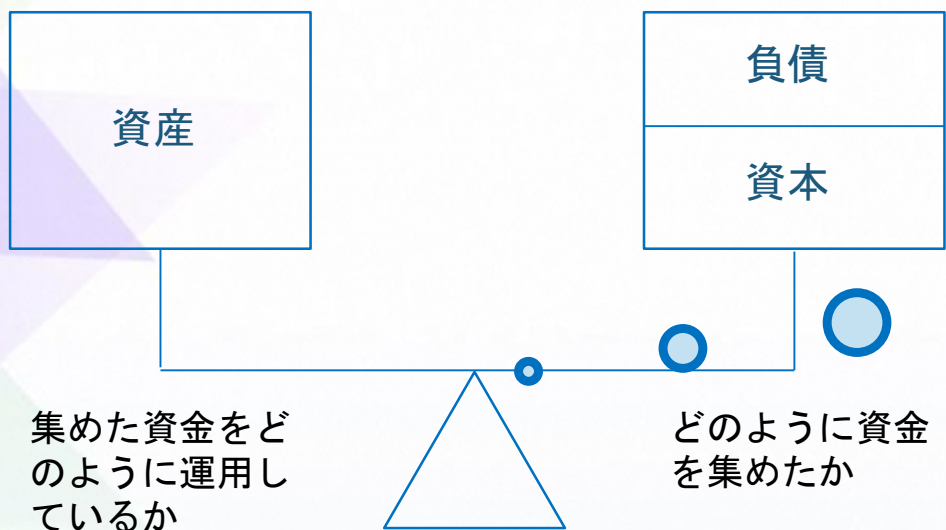
経理内容が明確になり、  
経営状況が容易に把握できます。

Cf.) 現金主義(官庁会計)

現金の収入及び支出の事実に基づいて経理記帳される会計方式です。

➤ 資産＝負債＋資本

資金の運用形態を示す「資産」と資金の調達状況（調達源泉）を示す「負債、資本」という概念があり、両者の合計は一致します。



「資産」と「負債、資本」がバランス（一致）します。

バランスシート（B／S）



## ➤ 財務諸表

### 貸借対照表（B／S）

企業の年度末における財政状態を明らかにした報告書です。

資産	負債
	資本

### 損益計算書（P／L）

企業の1会計期間（年度等）における経営成績を明らかにした報告書です。

費用	収益
当年度純利益	

## ➤ 決算附属書類

決算報告書及び財務諸表の補助説明ないし内訳説明として附属している資料。

- ①事業報告書②キャッシュ・フロー計算書③収益費用明細書④固定資産明細書  
⑤企業債明細書

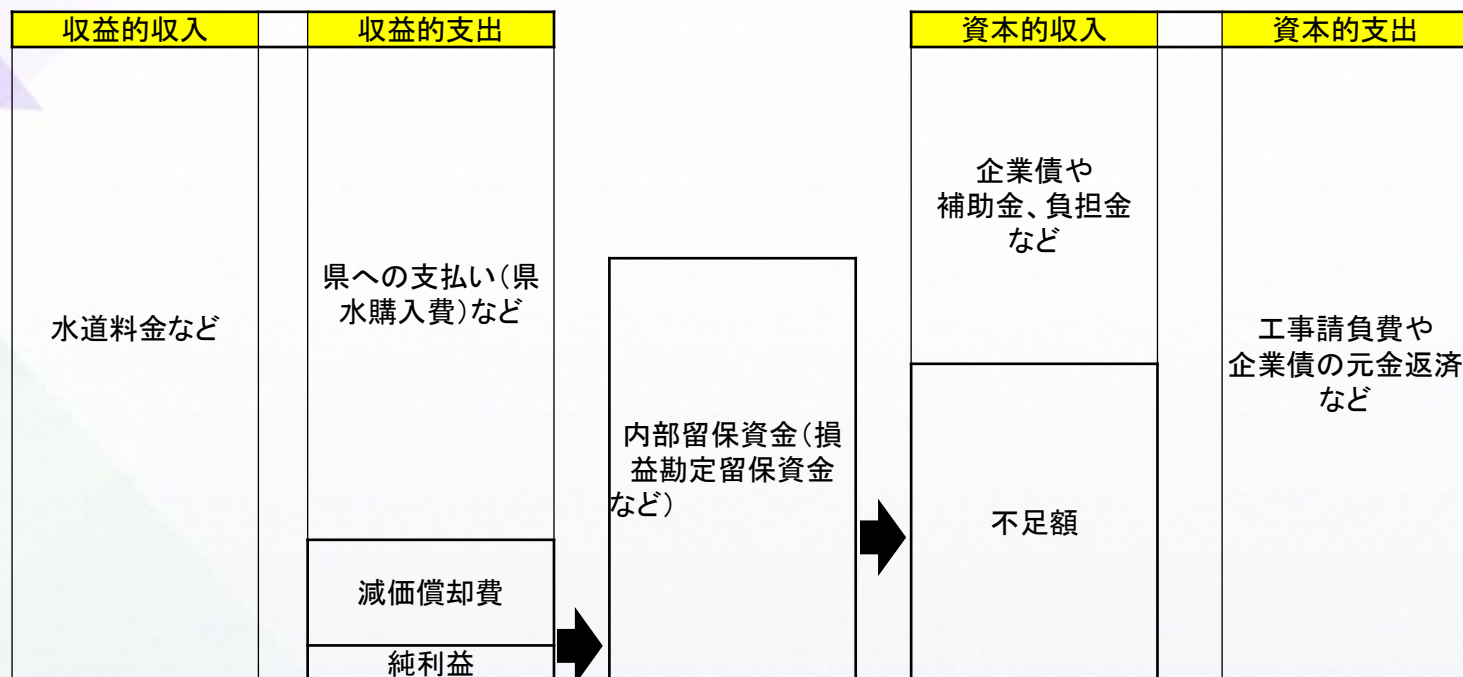
## ① 収益的収入・支出

当該年度の企業の経営活動に伴い発生すると予定されるすべての収益とそれに対応するすべての費用のことをいいます。

## ② 資本的収入・支出

住民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新等の建設改良のための支出とその財源となる収入のことをいいます。

【水道事業におけるイメージ】



## (2) 平成28年度決算

### 水道事業会計（収益の収支）

（単位：円 税抜）

科目	平成28年度決算額	平成27年度決算額	差額	前年度比
水道事業収益	6,523,647,195	6,414,453,972	109,193,223	101.7%
営業収益	6,048,537,202	5,980,048,649	68,488,553	101.1%
(うち給水収益)	(5,452,074,205)	(5,418,469,791)	33,604,414	100.6%
営業外収益	474,680,557	434,299,609	40,380,948	109.3%
特別利益	429,436	105,714	323,722	406.2%
水道事業費用	6,075,693,649	5,881,790,354	193,903,295	103.3%
営業費用	5,777,808,312	5,570,462,638	207,345,674	103.7%
営業外費用	185,570,971	200,789,000	△15,218,029	92.4%
特別損失	112,314,366	110,538,716	1,775,650	101.6%
当年度純利益	447,953,546	532,663,618	△84,710,072	84.1%
前年度繰越利益剰余金	644	26	618	2476.9%
その他未処分利益剰余金変動額	200,000,000	200,000,000	0	100.0%
当年度未処分利益剰余金	647,954,190	732,663,644	△84,709,454	88.4%



# 水道事業会計（資本的収支）

（単位：円 税込）

科目	平成28年度決算額	平成27年度決算額	差額	前年度比
資本的收入	709,545,900	729,703,606	△20,157,706	97.2%
企業債	531,200,000	550,700,000	△19,500,000	96.5%
他会計負担金	47,752,000	45,640,000	2,112,000	104.6%
工事負担金	31,670,982	44,059,508	△12,388,526	71.9%
水道施設加入金	98,842,920	89,266,320	9,576,600	110.7%
固定資産売却代金	79,998	37,778	42,220	211.8%
資本の支出	2,882,520,257	2,688,540,316	193,979,941	107.2%
建設改良費	2,199,171,413	2,002,473,037	196,698,376	109.8%
企業債償還金	683,348,844	686,067,279	△2,718,435	99.6%
予備費	0	0	0	—
資本的収支※	△2,172,974,357	△1,958,836,710	△214,137,647	110.9%

※資本的収支（不足額）は、過年度分損益勘定留保資金等で補填しました。

## 公共下水道事業会計（収益の収支）

（単位：円 税抜）

科目	平成28年度決算額	平成27年度決算額	差額	前年度比
下水道事業収益	5,947,102,844	5,967,027,610	△19,924,766	99.7%
営業収益	4,168,109,038	4,091,617,263	76,491,775	101.9%
(うち下水道使用料)	(3,242,010,022)	(3,228,173,621)	13,836,401	100.4%
営業外収益	1,778,257,094	1,874,864,318	△96,607,224	94.8%
特別利益	736,712	546,029	190,683	134.9%
下水道事業費用	5,635,072,810	5,750,337,980	△115,265,170	98.0%
営業費用	5,116,065,767	5,154,517,725	△38,451,958	99.3%
営業外費用	484,075,562	503,382,608	△19,307,046	96.2%
特別損失	34,931,481	92,437,647	△57,506,166	37.8%
当年度純利益	312,030,034	216,689,630	95,340,404	144.0%
前年度繰越利益剰余金	836	206	630	405.8%
当年度未処分利益剰余金	312,030,870	216,689,836	95,341,034	144.0%

# 公共下水道事業会計（資本的収支）

（単位：円 税込）

科目	平成28年度決算額	平成27年度決算額	差額	前年度比
資本的收入	806,340,698	1,430,784,245	△624,443,547	56.4%
企業債	581,900,000	937,200,000	△355,300,000	62.1%
国庫補助金	62,300,000	78,300,000	△16,000,000	79.6%
工事負担金	303,243	266,275	36,968	113.9%
受益者負担金	62,175,370	48,164,960	14,010,410	129.1%
分担金	13,660,370	15,472,100	△1,811,730	88.3%
他会計負担金	85,985,515	79,840,586	6,144,929	107.7%
他会計補助金	0	270,892,000	△270,892,000	—
固定資産売却代金	16,200	648,324	△632,124	2.5%
資本の支出	2,458,322,505	2,970,060,103	△511,737,598	82.8%
建設改良費	1,248,873,219	1,824,235,351	△575,362,132	68.5%
企業債償還金	1,209,449,286	1,145,824,752	63,624,534	105.6%
予備費	0	0	0	—
資本的収支※	△1,651,981,807	△1,539,275,858	△112,705,949	107.3%

※資本的収支（不足額）は、過年度分損益勘定留保資金等で補填しました。

# 5. 審議会について

## (1) 附属機関

川越市では、地方自治法第138条の4第3項及び地方公営企業法第14条の規定に基づき、法律又は条令により設置する審査会、審議会等の合議制機関を附属機関としています。

## (2) 川越市上下水道事業経営審議会

地方公営企業法第14条の規定に基づき、上下水道事業管理者が設置する常設の附属機関として位置づけられています。【川越市上下水道事業経営審議会条例（平成30年3月20日施行）第1条】

設置目的・・・水道事業及び公共下水道事業の経営に関する事項について審議する

組織・・・委員18人以内で組織する

任期・・・2年



### (3) 平成30年度スケジュール

回数	日時	会場	議題等
第1回	平成30年7月13日(金) 午前10時～	市役所7階7A会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委嘱</li> <li>・ 上下水道事業の概要について</li> <li>・ 諮問について</li> </ul>
第2回	平成30年7月20日(金) 午後3時～	川越市中央公民館 軽体育室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川越市上下水道ビジョンについて</li> <li>・ 受益者負担金、分担金について</li> </ul>
第3回	平成30年8月23日(木) 午後3時～	市役所7階7A会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川越市上下水道ビジョンについて</li> <li>・ 受益者負担金、分担金について</li> </ul>
第4回	平成30年10月 (予定)	未定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川越市上下水道ビジョンについて</li> <li>・ 受益者負担金、分担金について</li> <li>・ 答申案について</li> </ul>
第5回	平成30年11月 (予定)	未定	
第6回	平成31年 1月 (予定)	未定	

\* 第4回目以降のスケジュールについては、決まり次第ご連絡させていただきます。